

博士前期課程1年 T. S.

2月28日から3月2日までの3日間、龍谷大学にて催された The 4th Japan-Taiwan Joint Workshop for young Scholars in Applied Mathematics に発表者として参加しました。この研究会での発表は、私にとって初めての学外での研究発表でした。そして、初めての研究発表が、英語での発表になるとは思いもよりませんでした。

研究発表を行うということで、スライドを作成する段階から四苦八苦していました。スライドを完成させるに至るまで、多くの先輩方にご協力いただきました。また、私は英語が全くと言っていい程できないので講演原稿を作成するのも非常に苦心しましたが、指導教諭やポスドクの方にご協力いただいて、なんとか作成し、本番を迎えることができました。

発表では、始めてから少しして頭が真っ白になり、記憶していた話す内容も吹き飛んでしまい、夢中でスライドを見ながら説明をしていました。講演時間は発表・質疑応答・入れ替えを含め一人15分でしたが、発表が終わったときの体感では7、8分くらいに感じていましたが、実際は15分を超えていました。

他の学生の発表では、発表の仕方を学び、他分野の研究の面白さを感じました。発表の仕方、見せ方1つで、聴衆に研究の内容や面白みの伝わり具合が全然違うのだと感じました。また、日常の院生生活の中ではなかなか邦人以外と交流する機会はありませんが、台湾（海外）の方々と交流できたことが何より貴重な体験だと感じました。

最後に、このような貴重な体験をさせていただき、ありがとうございます。今後、この研究会での経験を活かし、研究を進め、研究の内容や面白みを分かりやすく伝えられる様な発表ができるよう努めたいと思います。

博士前期課程1年 J.O

2月28日から3月2日までの3日間、龍谷大学で開催された“第4回日台院生交流会”に研究発表者として参加しました。しかし私の場合、就職活動の筆記試験の日程と重なってしまい、一日遅れての参加となりました。直前に発表日をずらしてもらうなど、日台院生交流会の関係者や多くの方に多大なる迷惑をかけてしまいました。そんな私の勝手な要望も快く受け入れていただき、心から感謝しています。

初めて英語でプレゼンをするにあたり、英語が苦手な私は早い時期から準備をしました。指導教員の計らいもあり、何度も発表練習をする場を設けてもらいました。最初は棒読みだった英語も、回数を重ねるごとに抑揚がつくようになりました。

2月28日に発表するところを3月1日に変えていただいたので、その日の発表は私しかマスターがいまませんでした。ドクターの方々の英語は流暢で、質問に対してもしっかり受け答えされていました。そんなドクターの前後に挟まれて私の発表順番がまわってきました。正直、ドクターの方と英語を比べられても勝ち目はないと思いました。なので、拙い英語でも元気よく自分の研究の面白さを伝えようと、身振り手振りを交えて発表をしました。さらに、最初の印象も大事だと思い、台湾の方の母国語である中国語で自己紹介しました。

その結果、**Presentation Excellence Award** を受賞することができました。今までの努力がこのような形で結果に繋がって大変嬉しく思います。また、この賞を受賞できたのは、多くの周りの方が協力してくれたおかげだと思っています。研究室の皆さん、先生方、ポスドクの方、ドクターの方に感謝をしたいと思います。この賞に満足せずに今後も精進し、貴重な体験を今後活かそうと思います。